**枯れないお花、プリザーブドフラワーとは**

**プリザーブドフラワー？　ブリザードフラワー？**

**プリザーブドフラワー**とは特殊な技術をもとに生花のみずみずしさ美しさをできるだけ長い期間楽しめるように作られたお花のことです。

「ブリザーブドフラワー」「ブリザードフラワー」とも呼ばれたりもしていますが、英語で”保存された”を意味する「プリザーブド」、「**プリザーブドフラワー**」が正しい呼び方になります。  
【Preserved flower】

特にブリザードフラワーとよく間違われるのですが・・ブリザード＝猛吹雪を伴う冷たい強風という意味からして、凍らせて作るお花?!　みたいなイメージからでしょうか?

**プリザーブドフラワーとドライフラワーの違い**

ドライフラワーは、花や草木を乾燥させて（自然乾燥・乾燥剤などで乾燥）、プリザーブドフラワーは、一旦花の樹液を抜き、特殊なオーガニック系の染料を吸わせ、乾燥させて作ります。

どちらも生花を加工して作り、自然の風合いを楽しめる花ですが、ドライフラワーは壊れやすく飾っていると次第に色あせしてしまいます。

その点、プリザーブドフラワーはグリセリン成分の入った保存液を使いみずみずしくやわらかな質感を保ち、手間のかかる製造工程により、鮮やかで色あせしにくいお花になっています。

**カラーバリエーションを楽しめるのもプリザーブドフラワーの特徴！**

プリザーブドフラワーはお花やグリーンの持つ吸い上げる力で染色しているので、着色とは違い自然な色合いを表現できます。

また、生花では存在しない色（ブルーのバラ）など豊富なカラーバリエーションもプリザーブドフラワーの魅力のひとつです。

水やりの手間もなく美しい状態を長く楽しめる素敵なお花プリザーブドフラワーをご自宅のインテリアや大切な方への贈り物にぜひご利用ください。

**プリザーブドフラワー特徴・取り扱い**

**特徴　～生花でもドライでもない、不思議なお花～**

プリザーブドフラワーは生のお花を特殊な技術で加工したものです。

フレッシュなままの柔らかな風合い、美しい色合いを長く楽しむことができるように作られた生花でもドライでもない、新しいスタイルのお花です。

保存状態がよければ、1～2年はみずみずしく咲き続けます。 アレルギーの原因となる花粉やにおいがありません。　　（一部少し香るものもあります。）

**水やり・水換えなどの世話をする手間**がいりません。

グリーンの種類も多く、アレンジに加えるといっそう表情が豊かになります。

生花にはないさまざまな色合いがあり、個性的なアレンジを楽しめます。

特殊な技術で一輪一輪作られるプリザーブドフラワーは生花に比べると少し高価ではありますが、その魅力的な特徴からご自宅のインテリアやお店のディスプレイ、お友達やお世話になった方へのフラワーギフト（[母の日](http://homepage2.nifty.com/atelier-chura/mother.html)・[お誕生日](http://homepage2.nifty.com/atelier-chura/tannjyoubi.html)・[敬老の日](http://homepage2.nifty.com/atelier-chura/keirou.html)・[ご結婚](http://homepage2.nifty.com/atelier-chura/kekkonniwai.html)・[ホワイトデー](http://homepage2.nifty.com/atelier-chura/valentine.html)・ご出産祝いなど）や贈り物として非常に人気を集めています。

**取り扱い方法　～湿気や直射日光には注意して～**

プリザーブドフラワーは軽くやわらかな感触が持ち味ですが、とってもデリケートです。　生のお花のようにていねいに扱ってください。

**決してお水はあげないでください**。

**高温多湿や直射日光の当たる場所は避け、エアコンなどの風も直接当たらないよう**にしてください。　（劣化の原因になります。）

多湿により花びらがにじんできた場合は、軽くドライヤー（風、温度がきつすぎないよう気をつけ）で乾かすか、エアコンなどでお部屋を除湿していただければ、元の状態に近づきます。

今では、色々な場所で目にする機会のあるプリザーブドフラワー。

生花と異なり、長く楽しむことができます。

今回は、その歴史と特徴についてお話ししたいと思います。

**プリザーブドフラワーの歴史**

[ベルギー](https://latte.la/travel/place/belgium)の[ブリュッセル](https://latte.la/travel/place/bruxelles)大学と[ドイツ](https://latte.la/travel/place/germany)の[ベルリン](https://latte.la/travel/place/berlin)大学の、10年以上に渡る共同研究開発により、1987年にプリザーブドの技術がほぼ完成しました。この研究に参画していたヴェルモント社が、[フランス](https://latte.la/travel/place/france)は[パリ](https://latte.la/travel/place/paris)で、1991年に「**長寿命の切花製造技術**」として世界に向けて発表したのが、プリザーブドフラワーの始まりです。ヴェルモント社による発表後、世界特許認定を取得したプリザーブドフラワーの人気は、瞬く間にヨーロッパの花業界に拡大。  
枯れない花は、流行に敏感なパリや[ロンドン](https://latte.la/travel/place/london)で人々を魅了し、ギフトとしての人気が定着すると同時に、一般市民にも広まりました。

**日本で流行した背景**

初めて[日本](https://latte.la/travel/domestic)へ輸入されたのは、**1993年**頃と言われています。

その頃のプリザーブドフラワーは、今ほど花の種類が豊富ではありませんでした。

また、非常に高価だったこともあり、一般に広がることはなかったのです。

日本で飛躍的に一般の人々に広がったのは、2003年以降。

ヨーロッパでの生産技術が高まったこと。

日本国内での生産が始まり、日本人に好まれる優しい色合いの花々が作られるようになったこと。

生産の安定化による、コストダウンが成功したこと、などがその要因です。

では、プリザーブドフラワーがここまで爆発的な人気を博したのは、なぜでしょうか。

大きく5つの理由が考えられます。

理由1：簡単なメンテナンス

水やりの必要がないので、忙しい毎日を過ごす現代人でも、気軽に花のある生活が楽しめるようになりました。

理由2：安心

雑菌の繁殖やアレルギーを起こす心配がないので、病院や乳幼児保育施設、福祉施設など、様々な分野で需要が高まりました。

理由3：安全

食品用の色素を使用しているメーカーの物は、万が一誤食をしても、人体への影響がありません。安全面に配慮したい、小さな子供のいるご家庭やペットのいるお家でも楽しめます。

理由4：美しさ

フレッシュフラワーとほとんど変わらない、瑞々しさと美しさは、思わず触れてみたくなる程です。

理由5:ハンドメイド

従来、美意識が高く、細部にまでこだわることを得意とする日本人。

ブライダルシーンやギフトなど、クラフト感覚でアレンジができるので、多くの日本人女性がその楽しさに魅了されています。

**楽しめる期限**

生花のような新鮮さを兼ね備える、美しいプリザーブドフラワー。

魔法の花、と呼ばれるのも納得できます。  
  
その美しさから、贈り物としても大変な人気を集めていますが、その際、楽しめる期限についてのご質問をよく頂きます。  
  
過去には、永遠に枯れない魔法のお花、として紹介されていたこともありました。  
半永久的に美しい状態を楽しめる、とお考えの方もいらっしゃるようです。  
  
枯れない、と言う意味では、10年以上経過しても枯れることはありません。  
しかし、**美しさ**と言う意味では、**1～2年**と考えて頂くと良いかと思います。  
  
気候の適したヨーロッパでは、10年近くも美しさを保つと言われています。  
しかし、プリザーブドフラワーは気温や湿度変化に強くないため、春夏秋冬があり、高温多湿な気候の日本ではそうもいきません。

ヨーロッパと比較をすると、美しさを楽しめる期間に限りがあるのが現状です。

それ以上の時が経過すると、次第に褪色をしたり、花びらが切れたりします。  
より長い間、美しい花々を楽しむためには、透明の箱(クリアケース)に入れ、湿度や紫外線から保護しましょう。